

第 5 学年「家庭」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果**
- 調理や裁縫等に意欲的に取り組む児童が多い。
 - SDGs に関心があり、社会のために貢献したいと考える児童が多い。
- 課題**
- ▼ 生活経験の乏しい児童や複雑な家庭事情を抱える児童が多く、家庭生活を大切にする心情面や、より良い家庭生活を送るための実践面に関する指導が難しい場合もある。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 日常生活に必要な基礎的な理解と技能。
- ◇ 日常生活の中から問題を見出し、解決しようとする力。
- ◇ 家庭科で学習したことを日々の生活で生かそうとする力。

具体的な改善策

主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- 基礎的な技能が確実に習得できるように、実習の時間の確保に努める。また、技能等の学習では、2 学年を通して系統的に取り組む。

言語活動の工夫

- 調べたことや家庭での実践の振り返りを、グループ活動を取り入れるなどして積極的に共有することができるようにする。

ICT 活用の工夫

- ICT を活用しながら、調理用具や裁縫用具、ミシンの使い方等を丁寧に指導する。

課題解決力育成の工夫

- 学習内容を生かす家庭学習の課題を設け、自分の生活に学習したことを生かそうとする態度を育てる。

達成目標

- 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
- 家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。